



四旬節第 5 主日 (ヨハネ 12:20-33)

父なる神に栄光を帰す生き方を目指す

四旬節第 5 主日、受難の主日からの聖週間ももうすぐそこまで来ています。イエスが救いのわざを完成しようとする場面、それと同時に敵対する力もさらに増します。わたしたちも誘惑を退け、イエスが栄光をお受けになるその時を喜び迎えられるよう、学びを得ることにしましょう。

昨年末に大怪我をして現在病院で懸命のリハビリを続けている浜串の元区長さんをお見舞いしました。左腕を切断していると前もって聞いていましたので、どんな顔を作ればよいのか悩みましたが、思い切って最初に腕のことに触れて、気持ちを切り替えようと思い、「おー！腕無くなっちゃったねー」と大げさに言いました。沈んだ気持ちで面会したくなかったからです。

幸いに、元区長さんも悲しい顔は一切見せませんでした。わたしは最近の出来事として、黙想会のこと、新しい昭徳丸が浜串漁港に来て、お披露目をして、わたしが祝別したよと報告しました。とても喜んで話を聞いてくれました。元区長さんからも、いろんな話を聞かせてもらいました。そして、リハビリを懸命にして、浜串に戻りたいなあという目標も聞かせてくれました。

最後にわたしも、「浜串に戻ってきてね」とお願いしてから手を振って別れると、元区長さんが目を真っ赤にしました。わたしもこみ上げるものがあり、病人と別れるときに涙が溢れそうになったのは生まれて初めてでした。その場を離れる辛さがそうさせたのです。懸命にこらえていた気持ちが、最後に出たのだと思いました。

今週の福音朗読、御父に呼び掛けるイエスの二つの言葉が印象的です。一つは「父よ、わたしをこの時から救ってください」(12・27)そしてもう一つは「父よ、御名の栄光を現してください」(12・28)です。「救ってください」という思いがあったのに、「御名の栄光を現してください」という言葉に変わりました。

これは、イエスの個人的な思いを優先したい気持ちがあったのに、それをあえて後ろに置いて、御父の望みを優先させることを前に置いたということです。

いちばんの理解者であるはずの弟子たちさえ、イエスが十字架にかけられていのちを投げ出す道を思いとどまらせようとししました。イエスがこれからも自分たちの先生であり続けてほしかったからです。

イエスに思いとどまらせようとしたのは、弟子たちの個人的な感情を優先していたために望んだことでした。しかしイエスにとって最優先は、御父の望みでした。御父に栄光を帰すことが、そのままイエスご自身栄光を受ける道だったのです。イエスが復活して初めて、弟子たちもイエスの歩まれた道を理解することになります。

わたしは、長崎で面会した元区長さんも、今週の福音朗読でわたし

たちが学ぼうとしている道を全身全霊で受け止めようとしているのだと感じました。元区長さんも、「父よ、わたしをこの時から救ってください」と最初は願ったに違いありません。

けれども、3か月過ぎた今は「父よ、御名の栄光を現してください」という心境に変わったように思います。片腕を失いましたが、信仰は失っていませんでした。

むしろ信仰は火で精錬され、生かされていることをますますよく理解し、イエスに委ねて生きようという気持ちが育ち始めていると感じたのです。身体の不自由は大きな十字架ですが、元区長さんはこの十字架で、きっと御父に栄光を帰すに違いないと思いました。

イエスは十字架上の死と、その後の復活を目前にして、人はどのようにして御父に栄光を帰すべきかを教えます。人は行き詰ると、だれもが「父よ、わたしをこの時から救ってください」と言いたくなるのです。

けれども目の前の困難を避けるべきものでなく受けるべき十字架として見るとき、父なる神に栄光を帰す道が開けてくるのです。わたしたちは回り道も、後ずさりする場所さえもなくなって、ようやくイエスに委ねて困難を乗り越える道を選びます。その時とその場所がいつ用意されるかは誰にもわかりません。用意なさるのは神だからです。

わたしの生活で神さまにふと言いたくなる言葉は何でしょうか。

「父よ、わたしをこの時から救ってください」でしょうか。たしかに、逃げたくなるような出来事は山ほどあるでしょう。けれども、その現実を十字架として受け止める、背負うと決めたなら、その時からわたしたちは同じ状況でありながら御父に栄光を帰する人に変われるのだと思います。

わたしはありのままの自分の生活で、「父よ、御名の栄光を現してください」と声を上げる信者になれているのでしょうか。もしそうでないとしても、イエスはわたしたちにお手本を示し、従うようにと招いておられます。十字架上で御父に栄光を帰すイエスがわたしたちの生き方の物差しです。わたしの生活をどのように向けていけば、父なる神に栄光を帰すことができるか、今週一週間考えてみましょう。